

藤田医科大学

2020 年度

第 1 回アセンブリ教育ワークショップ

テーマ：

「新しいアセンブリ II のプログラム作成」

2020 年 7 月 12 日（日）

大学 2 号館 6 階 602 講義室

はじめに

アセンブリ教育は、医療における**専門職連携**教育です。アセンブリ教育において大切なことは**他者の尊敬（リスペクト）**です。アセンブリⅠ（1年生）では「他者との**コミュニケーション**」、アセンブリⅡ（2年生）では「**チームワーク**」、そして、アセンブリⅢ（3年生）では、「**患者中心性の考え方**」を身につけます。その後、アセンブリⅣ（4年生以上）では、医療現場における「**職種間の連携**」を学びます。

2020年度にアセンブリⅠの内容を全面的に改訂しました。通年に亘り、月曜午後の2時間以上をかけたコミュニケーション講習を始めています。新しい教育をうけた学生が受講する2021年のアセンブリⅡのプログラムをより効果的な内容へと改革する必要があります。

アセンブリⅡには、大学内外における多彩なプロジェクト活動があります。プロジェクトによっては、チームワークを身につけることが出来ずに活動を終えることもあります。また、教員の指導における温度差があり、支援の仕方も様々です。学生が出来事を振り返り、行動を変えることはアセンブリ教育に限らず、各学科における教育への波及効果もあります。そこで、アセンブリⅡを担当する教員が学生の**振り返りを支援し、プロジェクト活動を行う多学科混成チームのチームワークを向上**させるように導く能力が必要であると判断しました。

今回のワークショップでは、**田口 智博講師**（本学医学部地域医療学）をお招きして、「**振り返り**」の支援と「**チームコーチング**」についての講演を賜り、参加者に体験して頂きます。また、振り返りとチームコーチングを採り入れたアセンブリⅡの改革案の概略を提示し、問題と課題についての意見交換を行います。

アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

第1回アセンブリ教育ワークショップ

スケジュール

アセンブリ教育WS 1（7月12日[日曜日]） 進行表		
		会場：大学2号館6階602
時刻	時間	内 容
9:15	20分	受 付
Opning		
9:35	20分	学長 挨拶 センター長 挨拶 記念写真 撮影
Mini Lecture 1		
9:55	30分	これまでのアセンブリⅡと改革の必要性 （質疑応答を含む）
10:25	15分	（休憩）
Mini Lecture 2		
10:40	50分	新たにアセンブリⅡに採り入れる内容の説明 （質疑応答を含む）
11:30	60分	（昼食）
Mini FD		
12:30	105分	アセンブリⅡ教員を対象としたFD「チームダイナミクスを促進するチームトレーニングとファシリテーション～チームコーチング体験セッションから学ぶ～」の一部を体験
14:15	15分	（休憩）
Group Work		
14:30	60分	新たなアセンブリⅡにおける問題点・課題の抽出
15:30	30分	発表 & ディスカッション
Closing		
16:00	20分	まとめ 講評・質疑応答 アンケート記入※ 修了証授与 閉会の辞
16:20		終了

第1回アセンブリ教育ワークショップ

参加者一覧

センター	所属		氏名	グループ
センター長	医学部		大槻 眞嗣	★
演者	医学部		田口 智博	★
副センター長	保健衛生学部	リハビリテーション学科	西井 一宏	★
I	医療科学部	医療経営情報学科	服部しのぶ	A
II	医療科学部	医療検査学科	平山 将也	A
III	医療科学部	放射線学科	梅沢 栄三	A
IV	保健衛生学部	看護学科	織田千賀子	A
戦略企画	保健衛生学部	リハビリテーション学科	渡 哲郎	A
副センター長	保健衛生学部	看護学科	三吉友美子	B
II	医療科学部	放射線学科	南 一幸	B
III	医学部		太田 充彦	B
IV	保健衛生学部	リハビリテーション学科	会津 直樹	B
戦略企画	保健衛生学部	看護学科	朝居 朋子	B
副センター長	医学部		古澤 彰浩	C
I	保健衛生学部	看護学科	久納 智子	C
II	保健衛生学部	看護学科	梅村 慶子	C
III	保健衛生学部	リハビリテーション学科	伊藤美保子	C
IV	医療科学部	臨床工学科	中井 滋	C
戦略企画	医療科学部	放射線学科	小林 正尚	C
副センター長	医療科学部	医療検査学科	市野 直浩	D
II	保健衛生学部	リハビリテーション学科	三浦 恵二	D
III	保健衛生学部	看護学科	宮本 美穂	D
戦略企画	医学部		飯塚 成志	D
情報技術	医療科学部	医療経営情報学科	堀場 文彰	D
副センター員	保健衛生学部	看護学科	中村小百合	E
I	保健衛生学部	リハビリテーション学科	米本 倉基	E
III	医療科学部	臨床検査学科	東本 祐紀	E
戦略企画	医療科学部	医療経営情報学科	村田 幸則	E
情報技術	IT企画開発部	企画開発課	小池 俊行	E
センター事務			松岡 透	事務
センター事務			高柳 友里	事務
	ビジュアルセンター		貝嶋 正義	撮影
	ビジュアルセンター		解良 春恵	撮影

第1回アセンブリ教育ワークショップ

【Opening】才藤 栄一 学長 挨拶





～2020年度アセンブリ教育WS1日目～
はじめに (2020.7.12版)

アセンブリ教育とは

アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

FUJITA HEALTH UNIVERSITY 藤田医科大学

アセンブリ教育とは

医療における**専門職連携教育**！

FUJITA HEALTH UNIVERSITY

専門職連携教育の定義

専門職連携教育は、
二つあるいはそれ以上の専門職が
協働とケアの質を改善するために、
**共に学ぶ、お互いから学び合い、
お互いのことを学ぶこと**、である。

CAIPE 2002

FUJITA HEALTH UNIVERSITY

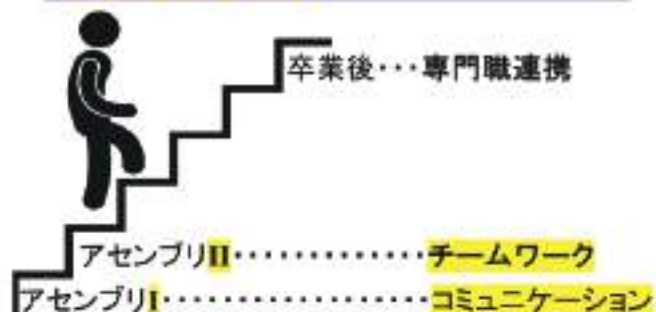
アセンブリ教育で身につける力

卒業後...専門職連携

アセンブリ.....コミュニケーション

FUJITA HEALTH UNIVERSITY

アセンブリ教育で身につける力



アセンブリⅡ(2年生)

「**チームワーク**」の習得！

プロジェクト学修を通じて



**‘チームとグループ’
の違いは？**

備考) 2021年度から新しいプログラム

振り返りと行動変容

出来事の**振り返り**

➡ 気づき

➡ 行動変容

‘行動を変える！’

アセンブリ教育において**大切なこと**

他者の尊敬

(リスペクト！)

アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣



第1回アセンブリ教育ワークショップ

【Mini Lecture1】これまでのアセンブリⅡと改革の必要性

アセンブリ教育副センター長 西井 一宏



これまでのアセンブリⅡと改革の必要性

アセンブリ教育センター
アセンブリⅡ担当副センター長 西井一宏

FUJITA HEALTH UNIVERSITY 藤田医科大学

本日の内容

- ・アセンブリⅡのあゆみ
- ・アセンブリⅡの現状
- ・アセンブリⅡの課題

FUJITA HEALTH UNIVERSITY

アセンブリⅡのあゆみ

- ・2015(平成27)年度から開始
- ・2年生のみを対象
(それまでは1,2年生合同でアセンブリⅠ班活動を実施)
- ・プロジェクト制を導入

FUJITA HEALTH UNIVERSITY

社会人基礎力

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な能力を「社会人基礎力(=3つの能力・12の能力要素)」として定義。



FUJITA HEALTH UNIVERSITY

到達目標の変遷

- ・2015年度から2019年度まで
- ・チームとして明確な目標を定めることができる。
- ・主体的に考え、目標に向かって**一歩踏み出す**ことができる。
- ・将来直面する課題の問題点を発見し問題解決を行うなど**考え抜く力**を発揮できる。
- ・**チーム活動**を円滑に行うことができる。

到達目標の変遷

- ・2020年度から
「到達目標」⇒「身につける力」に
- ・アセンブリⅡで身につける力:「**チームワーク**」
- ・チームとして明確な目標を定め、プロジェクトをやり遂げる。
- ・チームのために、主体的に一歩踏み出す。
- ・問題点を発見し、解決に向けて考え抜く。

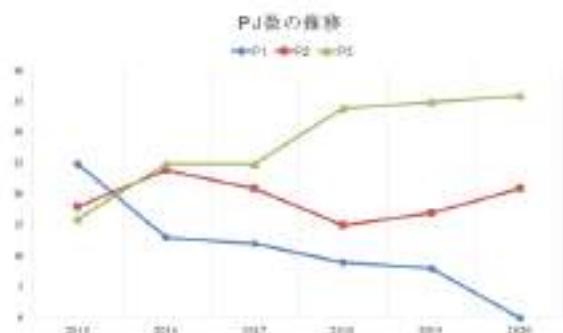
プロジェクトについて(以下、PJ)

- ・2015(平成27)年度のパJ
- ・1000番台(P1 **アセンブリⅠ** 関連PJ):25
- ・2000番台(P2 **学内・院内** PJ):18
- ・3000番台(P3 **学外** PJ):16

プロジェクトについて(以下、PJ)

- ・2020(令和2)年度のパJ
- ・1000番台(P1 **アセンブリⅠ** 関連PJ):なし
- ・2000番台(P2 **学内・院内** PJ):21
- ・3000番台(P3 **学外** PJ):36

PJ数の推移



2015年度 1000番台PJ(P1)

1001	弓道競技会参加者プロジェクト
1002	「ハローボール」活動の活性化プロジェクト
1003	バドミントン部活動活性化プロジェクト
1004	健康で元気な生活を送るプロジェクト
1005	サッカー部新人入部会
1006	健康な生活を送る
1007	大規模な健康活動
1008	健康を司るプロジェクト
1009	アセンブリⅡ部員プロジェクト推進
1010	いこいの広場コンサート開催支援
1011	健康活動を推進しよう
1012	お話をきく会を推進しよう
1013	アセンブリⅡ部員
1014	健康な生活を送るプロジェクト推進
1015	健康な生活を送るプロジェクト推進
1016	健康な生活を送るプロジェクト推進
1017	ラグビーフットボール部の活性化プロジェクト
1018	有酸素運動のためのラダー入門
1019	ランニング部員プロジェクト推進
1020	健康な生活を送るプロジェクト推進
1021	健康な生活を送るプロジェクト推進
1022	健康な生活を送るプロジェクト推進
1023	健康な生活を送るプロジェクト推進
1024	健康な生活を送るプロジェクト推進
1025	健康な生活を送るプロジェクト推進

2015年度 2000番台PJ(P2)

2002	暑期まつり
2003	サマースクール
2004	院内デイケア
2005	看護の日、介護の日
2006	安全管理研修会へ参加して安全管理を高めよう①
2007	安全管理研修会へ参加して安全管理を高めよう②
2008	安全管理に関する委員会に参加し、安全管理推進者の網になろう
2009	院内感染防止対策チーム
2010	緩和ケア
2011	医療科関連の健康づくり教室への参加と市民交流
2012	リハビリ講学が行っている前期看護や健康教室参加
2013	認知症サポーターになって活躍してみよう
2014	日常生活支援技術を身に付け、実践しよう
2015	海外からの留学生・研究主に日本の文化、最新の文化を知ってもらおう
2016	院内学級の生徒たちが夏を企画しよう！
2017	キックボクササイズで体を鍛えよう！
2018	お掃除部隊クリーンチーム

2015年度 3000番台PJ(P3)

3001	スペシャルオリンピックス エアロビクスプログラムへのボランティア参加
3002	スペシャルオリンピックス バドミントン競技
3003	スペシャルオリンピックス テニス部門
3004	スペシャルオリンピックス ボーリング競技
3005	スペシャルオリンピックス日本・愛知 ボッチャのボランティア参加
3006	薬物依存者の当事者活動支援
3007	炊き出し活動（ホームレス支援）
3008	障がい者の生活支援
3009	一歩前進計画（BLS Basic Life Support）を市民と共に学ぼう
3010	都市緑化フェスティバル愛知 豊明会場でのサポート
3011	小学生のための健康教室（体のしくみ）
3012	熱せる写真
3013	名古屋市科学館での企画実施
3014	本のプレゼン対決、ビブリオバトルをやってみよう！
3015	学内外の学業・研究会お助け隊
3016	高齢者向けの中たり運動プログラムの作成

2020年度 2000番台PJ(P2)

2001	院内施設の手帳に施設紹介動画をしよう！
2002	暑期ケア
2003	院内デイケア
2004	本のプレゼンバトル・ビブリオバトルをやってみよう！
2005	英語学習会（英語検定）に参加しよう！
2006	院内感染対策チーム
2007	医療科学部・看護科学部オープンキャンパス（BLS）実施
2008	医療科学部・看護科学部（認知症）に関するプロジェクト
2009	暑期まつり（院内）
2010	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2011	暑期ケア（院内）
2012	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2013	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2014	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2015	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2016	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2017	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2018	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2019	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
2020	院内感染対策チームの活動に参加しよう！

2020年度 3000番台PJ(P3)-1

3001	スペシャルオリンピックス日本・愛知バドミントン
3002	スペシャルオリンピックス日本・愛知テニス
3003	スペシャルオリンピックス日本・愛知ボッチャ
3004	スペシャルオリンピックス日本・愛知ボウリング
3005	小学生のための健康教室（体のしくみ）
3006	暑期まつり（院内）
3007	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3008	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3009	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3010	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3011	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3012	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3013	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3014	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3015	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3016	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3017	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3018	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3019	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3020	院内感染対策チームの活動に参加しよう！

2020年度 3000番台PJ(P3)-2

3001	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3002	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3003	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3004	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3005	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3006	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3007	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3008	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3009	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3010	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3011	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3012	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3013	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3014	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3015	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3016	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3017	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3018	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3019	院内感染対策チームの活動に参加しよう！
3020	院内感染対策チームの活動に参加しよう！

アセンブリⅡの現状

1. 1チーム複数学科6人の学生でチームを編成
2. アンケート調査に基づき、チーム編成と所属PJを決定
3. PJによるチーム数、担当教員数の差
4. 活動時期・回数の違い

アセンブリⅡの現状

1. 1チーム複数学科6人の学生でチームを編成

- ・各学科から1名ずつが理想だが、2学科のみで編成されるチームもある。

2. アンケート調査に基づき、チーム編成と所属PJを決定

- ・学生は第5希望まで提出
- ・今年度第1希望に配属された割合：約15%

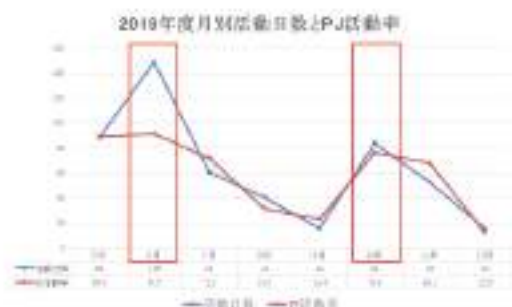
アセンブリⅡの現状

3. PJによるチーム数、担当教員数の差

- ・PJ毎のチーム数は1～6
- ・複数チームを持つPJは全体の50%
- ・チーム当たりの教員数は0.3～7人

アセンブリⅡの現状

4. 活動時期・回数の違い



アセンブリⅡの課題

1. 「身につける力」と実際の活動内容との乖離
2. 学生間、担当教員間もしくは学生教職員間でのモチベーションの差
3. 教員の業務負担量

アセンブリⅡの課題

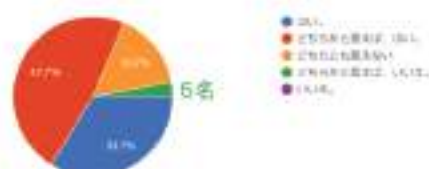
1. 「身につける力」と実際の活動内容との乖離

- ・本当に「チームワーク」が身につけているのか？
- ・学生は主体的に動いているのか？
- ・自分たちで考え(抜い)ているのか？

アセンブリⅡの課題

2019年度のアンケート結果より

問10 アセンブリⅡ
活動を通して社会人基礎力（前に踏み出す力、働く力）を養うことができたが、
その理由を教えてください。



アセンブリⅡの課題

2019年度のアンケート結果より

問1 3. アセンブリⅡ活動は主体性を育む活動でしたか。
(12/24/2022)



アセンブリⅡの課題

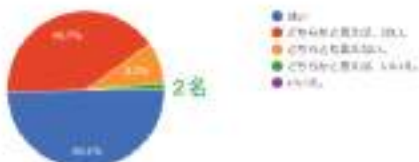
2. 学生間、担当教員間もしくは学生教職員間でのモチベーションの差

- ・希望順位の低いPJに配属された学生のモチベーション
- ・担当教員にも同じことが言えるのでは…
- ・教員だけが一生懸命、学生は…
 - ・病院や外部組織との関係上、学生だけに任せられない場合も…

アセンブリⅡの課題

2019年度のアンケート結果より

問2 あなたが参加したプロジェクト活動は興味を持てる内容でしたか。
(12/24/2022)



アセンブリⅡの課題

3. 教員の業務負担量

- ・活動回数の多いPJや教員数が少ないPJでは負担大
- ・問題学生(書類提出期日を守れない等)がいるPJでは負担大
- ・可能な限り担当教員の業務量を軽減できれば…

終わりに

現状のアセンブリⅡには様々な課題が存在

そこで今回、
田口先生にご提案頂く、「新たなアセンブリⅡ」によって
今後のアセンブリⅡがより良くなれば、と考えております。



資料1 新たにアセンブリⅡに取り入れる内容の説明と本日のFD

地域医療学 田口智博

1. 新たにアセンブリⅡに取り入れる内容の説明と 7/12FD の背景

(1) アセンブリ教育Ⅱの目的・方針

学生がチームワークを身につける

(チームとして明確な目標の設定とプロジェクトの実行、主体性、問題点の発見と解決策の立案→グループがチームに変化する)

↑

教員が支援する

(2) これまでのアセンブリ教育Ⅱの課題

- ・プロジェクトの内容や実行する場 学生だけではイメージ・実行しづらい
- ・専門職連携教育に携わる大学教員の支援が様々、とされている。

(3) 2021年度からの新たなアセンブリ教育Ⅱ

プロジェクト活動は継続(学生がプロジェクトを実施、教員が支援)し、全体活動でチーム活動の枠組み設定や振り返りを実施することを通して学生のプロジェクト活動と教員の支援を継続的に支援することが提案されている(後述)。

(4) 新たなアセンブリ教育Ⅱに向けての担当教員を対象としたFD

新たなアセンブリ教育Ⅱにおける専門職連携教育では

2020年10-11日に開催されるアセンブリ教育Ⅱの担当教員を対象としたFD

(チームダイナミクスを促進するチームトレーニングとファシリテーション～チームコーチング体験セッションから学ぶ～:180分を予定)によって

担当教員がチームトレーニングやファシリテーションを修得することを通して、

学生のプロジェクト活動を支援し、学生の主体性やチームワークがさらに向上することが期待される。

(5) アセンブリ教育Ⅱに向けての学生の readiness

学生はアセンブリ教育Ⅰでの“チームをつくる”の実習で

チームトレーニングとファシリテーションの基本について体験から修得している。

2. 新たにアセンブリⅡに採り入れる内容の説明と 7/12FD の目的・目標

(1) 目的

新たにアセンブリⅡに採り入れる内容の説明と

2020 年 10-11 月に開催されるアセンブリ教育Ⅱの担当教員を対象とした FD

《チームダイナミクスを促進するチームトレーニングとファシリテーション

～チームコーチング体験セッションから学ぶ～》の一部を体験していただくこと

を通して、

2021 年度以降のアセンブリ教育Ⅱの内容とチームワーク向上の理論的背景およびアセンブリ教育Ⅱにおける教員の役割と支援内容について理解していただくこと

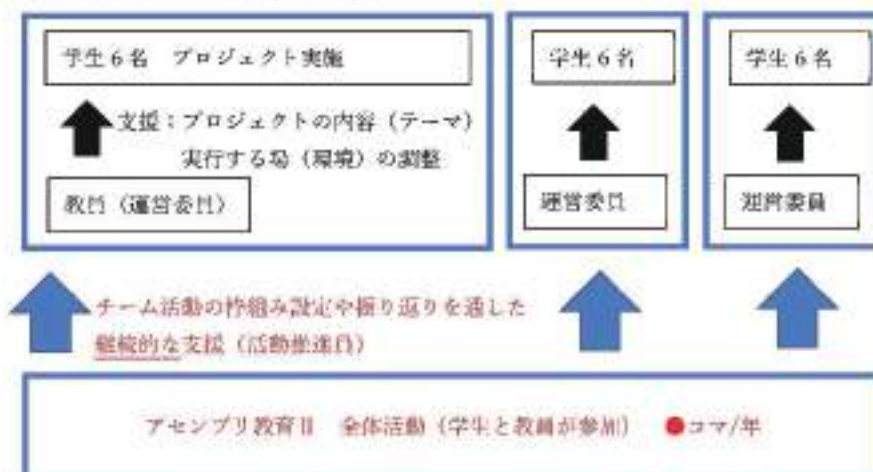
2020 年 10-11 月開催予定の FD を体系的に理解していただくこと

(2) 目標

- ・新たなアセンブリ教育Ⅱの概要と理論的背景を理解する。
- ・新たなアセンブリ教育Ⅱの教員の役割と支援内容を理解する。
- ・新たなアセンブリ教育Ⅱの教員が必要なチームトレーニングやファシリテーションについて理解する。
 - ・チームとグループの違い
 - ・チームトレーニング・チームコーチングの必要性
 - ・チームコーチングの概要と理論・効果性
 - ・ファシリテーションのエッセンス

3. 新たなアセンブリ教育Ⅱ 2021 年度～

(1) 新たなアセンブリ教育Ⅱの概要



・プロジェクト活動（学生がプロジェクトを実施、教員（運営委員）がその支援をする）は継続

・全体活動でチーム活動の枠組み設定や振り返りを行う

→ [学生及び学生を支援する教員（運営委員）] を継続的に支援する（活動推進員）

（２）新たなアセンブリ教育Ⅱにおける教員の役割と支援内容

運営委員：

学生プロジェクトの内容（テーマ）や実行する場（環境）の調整・支援を行う。

学生に対してそのプロジェクトのミッションを与え、

チームトレーニングやファシリテーションを通してプロジェクトの実行の支援を行う。

活動推進員：

[学生及び学生を支援する教員（運営委員）] を継続的な支援を行う。

担当教員は2019年10-11月に開催されるFDによって

チームトレーニングやファシリテーションを修得することを通して、

学生プロジェクト活動を支援し、学生の主体性やチームワークがさらに向上することが期待できるとはいえ、

1回のFDで担当教員のみならずその責務を担っていただくのは負担が大きく、支援にばらつきがあることが予想される。

（３）全体活動の役割と内容

①オリエンテーション チーム活動の枠組み設定

プロジェクトを実行する学生チームのミッション・アイデンティティ・ビジョン・
ルールの設定、成果目標の設定、現状把握、次回全体活動までの目標設定、実行計画、
プロジェクト活動の手続き
など

②中間の振り返り 複数回

プロジェクトの成果を含む現状の把握、行動と意識の振り返り、目標・課題の再設定、
実行計画

③成果発表会 プロジェクトの発表とチームの完了（振り返り）

4. 今後のスケジュール

①7/12FD 新たなアセンブリ教育日の問題点・課題の抽出

- 課題の例：プロジェクトの時期（プロジェクトの進み方）が異なる
- 単発のプロジェクトもある
- 全体活動の時間に制約がある 担当教員の出席

②8/6FD 抽出された課題の解決策

③10-11月 アセンブリ教育日の教員を対象とした3時間のFD

- チームダイナミクスを促進するチームトレーニングとファシリテーション
- チームコーチング体験セッションから学ぶ→
- ファシリテーション、チームトレーニングの基本的な知識やスキル・マインドを教員自らが体験して振り返りを通して修得する



7月12日 10:40-11:30 (50分)

新たなアセンブリ教育Ⅱ 理論的背景

地域医療学 田口智博

新たなアセンブリ教育Ⅱ

- 新たなアセンブリ教育Ⅱの理論的背景
 - なぜチームトレーニング・チームコーチングなのか？
 - チームの必要性 チームとグループの違い
 - チームトレーニングの必要性
 - チームコーチングの必要性
 - チームコーチングの概要
 - チームコーチングとは？
 - 他のチームトレーニングとの違い
 - チームコーチングの理論
 - 組織の成長モデル（グループ成長理論）
 - 効果的なチームの5つの基本原則
 - ファシリテーション（効果的な会議運営）

グランドルール

- 配布資料があります。

配布資料1 新たにアセンブリⅡに採り入れる内容の説明と
本日のFD（WORD）
配布資料2 新たなアセンブリ教育Ⅱ理論的背景
（パワーポイント）

- 質問はいつでもどうぞ。

2つの質問

- 難しい課題に対して何を選択しているか？
 - どうせ無理 vs こうしたい！こうしよう！
 - よしきた！（チャンス） vs 仕方ない（黙認）
vs とんでもない（脅威）
- 課題は誰のものか？ 解決者は誰か？
 - 誰のせい？ 私の何がいけないのか？ vs
自分に何ができるか？ 何をするとベストか？

どれを選択するか？

個人のメンタルモデル

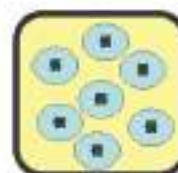
- 個人では気づきにくい
- 気づいて別のメンタルモデルを選択しても元に戻りやすい

Senge 2006

11

卓越した成果を達成するチームに どうしてなりにくいのか？

- 集団にもメンタルモデルがある
- 集団の中にいると、そのメンタルモデルに気づきにくい
- 気づいて変化させようとしてもなかなか変わらない



Senge 2006

12

医療でなぜチームなのか？

- 医療の複雑性と専門分化の増加
- 併存疾患のある患者の増加
- 慢性疾患の発生率の上昇
- 世界的な労働力不足
- 安全な労働時間の確保

WHO Patient Safety Curriculum Guide:
Multi-professional Edition 2011

13

効果的なチームのアウトカム 1

- **患者**
 - 医療に対する満足感の増大、治療の受容
 - プライマリケア (Stevenson K et al, 2001) やがん治療 (Junor EJ, Hale DJ, Gillis CR, 1994) などの領域における転帰改善
 - 医療上のエラーの減少 (Morey JC, Simon R, Jay GD, 2002, Risser DT et al, 1999)、患者安全に直接的な好影響 (Baker DP et al, 2005)
- **チーム全体**
 - 医療における協働の改善、医療サービスの効率化、コミュニケーションの強化と実施、可能な業務範囲の拡大 (Mickan SM, Rodger SA, 2005)

効果的なチームのアウトカム 2

- **チームの個々のメンバー**
 - 職務満足の向上、役割の明確化、福祉の向上
- **組織**
 - 入院期間の短縮と医療費の削減、予期せぬ入院の減少、医療の利用しやすさの改善

Mickan SM, Rodger SA, 2005

14

チームとは？

- チームとは以下の条件を満たす複数の個人の集まりである：
 - 動的に相互作用する
 - 共通の目標／任務を持つ
 - 特定の課題が割り当てられている
 - 専門的かつ相補的な技能を有する

WHO Patient Safety Curriculum Guide:
Multi-professional Edition 2011

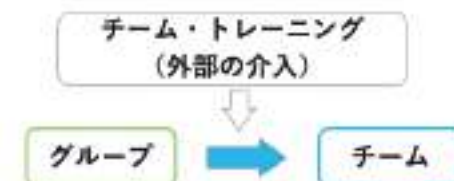
15

チームとは？

グループ	チーム
個人個人の目標に合意	共通の目的・一連の目標・アプローチに合意
時にメンバーが特定されず、大人数	メンバーが特定されている 少人数
個人の責任 他のメンバーの成果に責任を問われない	役割を超えた責任 連帯責任
相加効果	相乗効果

Kazemba & Smith 1993, Kettley & Hirsch 2000
Clutterbuck 2009, Hawkins P 2011 をもとに作成

チームになるためには？



Hawkins P 2011 をもとに田口が図を作成

チーム医療の推進に極めて重要

(チーム医療推進方策検討ワーキンググループ 2011)

患者安全にとってチームワークは重要で、
チームトレーニングは必要

(WHO Patient Safety Curriculum Guide:
Multi-professional Edition 2011)

医療におけるチーム・トレーニング



Review

Interventions to improve team effectiveness: A systematic review

Martina Buijck-Santander, Corine M. Dekker-van Doorn,
Jeroen D.H. van Wijngaarden, Kees P. van Wijk

Erasmus MC, Department of Health Policy Management (HBM), Rotterdam, The Netherlands

これまでの 医療におけるチーム・トレーニング

- これまで急性期、回復期、精神科領域、
周産期領域といった特定の領域において
それぞれ異なる。
- 汎用性のあるチーム・トレーニングの方法や
その効果を検証した研究はほとんどない。

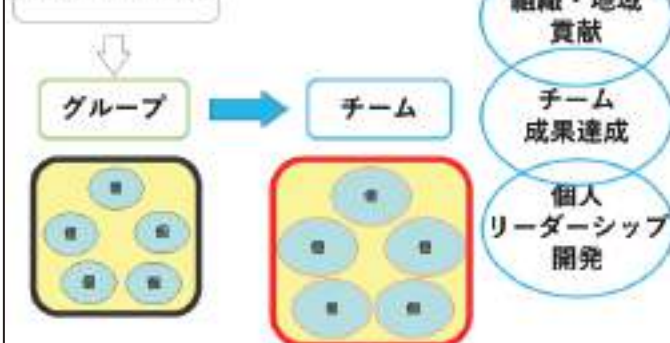
Martina, et al. 2010, 菊地 2004

汎用性のあるチームコーチング



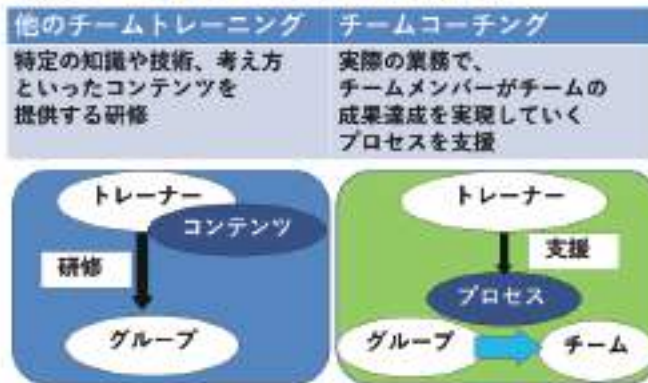
Heckman & Wageman 2005, Clutterbuck 2009,
Hawkins P 2011, 菊地 2012 をもとに作成

チームコーチング



Heckman & Wageman 2005, Clutterbuck 2009,
Hawkins P 2011, 菊地 2012 をもとに作成

チームコーチングと 他のチームトレーニングとの違い



Hawkins P 2011, 桑原 2012をもとに田口が図・表を作成

成功のコア・セオリー



Daniel H. Kim : What Is Your Organization's Core Theory of Success ?
In Organizing for Learning: Strategies for Knowledge Creation and
Enduring Change, Pegasus Communications, 2001, p69-84

グループ成長段階



形成期	お互いの探り合いと依存、課題に向き合う、目的が不明確
混乱期	役割と要求される行動に対する敵対心、グループ内の葛藤や対立
統一期	目的に合意、ルールと役割の確立、本心の表現、一体感の醸成
機能期	柔軟な役割、課題達成にフォーカス
解散期	グループの解散、心配や悲しみ

高業績をあげるチームの5つの基本原則



機能する会議 ①

ファシリテーションの基本

1. 会議の主役はメンバーであることを認識する
2. ファシリテーター、書記、タイムキーパーを明確にする
3. 効率的な会議運営のための会議のルールを設定する

ファシリテーターは
メンバーが主体的に参加することを促す
メンバーの意見を尊重し、正確に理解する
メンバーの意図や意欲を承認する

機能する会議 ②

会議の目的を共有する

1. 決めるための会議
2. 事実を把握するための会議
3. 情報共有するための会議
4. アイデアを出し合うための会議 等

何のために会議を行うのか？
何のためにあなたが呼ばれたのか？
(厳選した人選も大事)

機能する会議 ③

会議運営を通してチーム形成をする

1. メンバーのかかわりについての基準を明確にする
 1. 会議の基準
開始・終了時間、途中退席、携帯電話 など
 2. コミュニケーションの基準
傾聴し理解したか確認する、チームの任務に関する話に集中する、
具体的かつ事実に基づいている など
2. チームの任務とゴールについて明確な状態にする

プレゼンテーションスキルや
コンフリクト・マネジメントスキルも必要

機能する会議 ④

会議の準備

会議に必要な備品を用意する

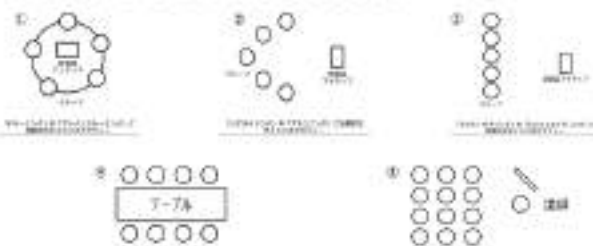
- ✓ ホワイトボード
- ✓ ホットプレート
- ✓ 模造紙
- ✓ テープ
- ✓ 時計・タイマー
- ✓ プロジェクター
- ✓ 音響機器 等

会議の目的を実現するための環境・備品を整える

機能する会議 ⑤

サイコジオグラフィ

位置関係による心理的な影響を考慮する



会議の目的に沿って椅子の並びを変える

機能する会議 ⑥

会議の議論の仕方を選択する

1. 意見発表と質疑応答
2. フリーディスカッション
3. ブレインストーミング
4. ノミナル・グループ・テクニク (NGT)
5. 会議のプロセスモデル (アラインメントモデル、
GROWモデル、アイゼンハワー・マトリックスなど)

アラインメント・モデル

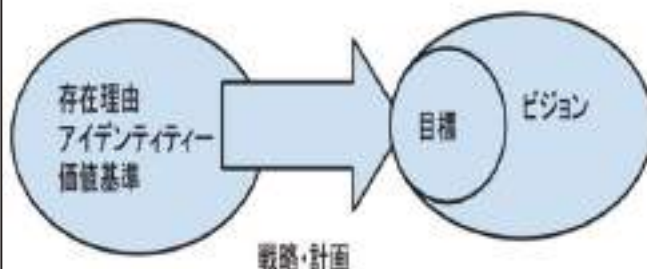
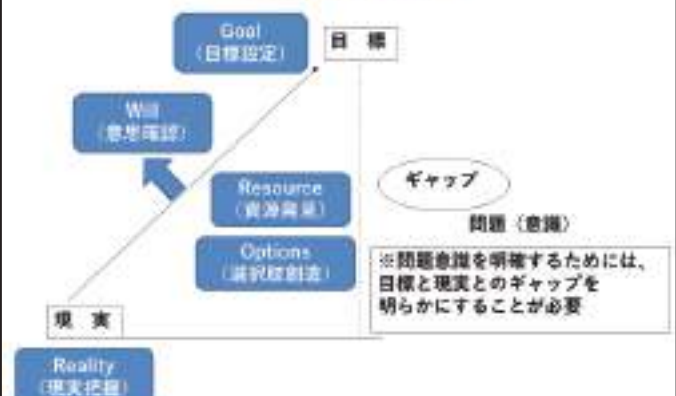


図2-20 2007

GROWモデル



第1回アセンブリ教育ワークショップ

【Mini FD】アセンブリⅡ教員を対象としたFD「チームダイナミクスを促進するチームトレーニングとファシリテーション～チームコーチング体験セッションから学ぶ～」の一部の体験

医学部地域医療学 講師 田口 智博

7月12日 12:30-14:15 (105分)

**アセンブリⅡ教員を対象としたFD
「チームダイナミクスを促進する
チームトレーニングとファシリテーション
～チームコーチング体験セッションから学ぶ～」
の一部の体験**

地域医療学 田口智博

Mini FD

- アセンブリ教育Ⅱをテーマとしたチームコーチングの体験

6人チームでチームコーチングの体験セッション
＝ 実務を扱う会議の場
⇒ セッション導入部分の体験

※目的はチームトレーニングやファシリテーションができるようになることではありません。
新たなアセンブリ教育Ⅱの教員が受講するFDの一部を体験することで、チームトレーニングやファシリテーションの基本的な知識やスキルやマインドを体験的に理解することです。
チームについて扱いますが、専門関連教育そのものの概念は扱いません。

グラドルール

- 配布資料があります。

配布資料3 アセンブリⅡ教員を対象としたFD
「チームダイナミクスを促進する
チームトレーニングとファシリテーション
～チームコーチング体験セッションから学ぶ～」
の一部の体験 (パワーポイント)

- 携帯電話は電源オフにするか音断
- 体験セッションでは、メンバーが一人でも欠けたら話し合いはストップ
- 質問はいつでもどうぞ。

**6人チームでアセンブリ教育Ⅱをテーマとした
チームコーチング導入部分の体験セッション**

- 自己紹介
 - フルネーム、所属、出身、趣味・最近のマイブーム
- 新たなアセンブリ教育Ⅱで特に印象に残ったこと
- Mini FDで得たいこと
- 今の気持ち
- 1.5分 / 人 合計9分
- 目的 / チームの信頼関係の構築 (相手を尊重・傾聴)。

セッションルール 追加は？ 合意まで3分

1. 参加100%	・全面的に関わる。
2. パートナリシップ	・お互いがうまくいくようにする。
3. 正直	・真実を告げる。 自分自身に、他の人に。
4. 冒険	・自分のパターン・安全圏を突破する。
5. 決める	・ほしいものを具体的に肯定的に決める。

Robert White / "Eight Elements of Personal and Organizational Effectiveness"
Living an Extraordinary Life - Extraordinary Resources, 2nd edition, 2008

**Q: アセンブリ教育Ⅱを通して
学生や大学、患者・家族・地域社会、
医療施設(組織)に
創りだしたいものは何か?
どのような貢献ができるか?**

- ビジョン
- ファシリテーター・書記・タイムキーパー
- 全部で30分 (前半15分、後半15分)
- 個人作業 ポストイット1枚に1つの内容、複数枚可
- 読み上げてホワイトボードに似た内容があれば近くに貼る (島)
- 投票 3票 / 人 島に正の字を書く
- 得票数の多い3枚を中心に30文字 (目安) 以内のチームで合意した文章をホワイトボードに書く

ビジョン

**現実的・達成可能
イメージできる
魅力的な未来像**



ポイント1

- みなさんにとって魅力的か？
- みなさんならではのビジョンか？
- 関係する人たちにとって魅力的か？

ポイント2

～すべき、～しなければならない

↓

～しています

チームで合意した文章を時間内につくる

◆全員がリソースパーソン ◆3役を決める / 交代する



合意した文章

ファシリテーター

- 話し合いの進行
- 他のメンバーの意見を引き出す

書記

- 意見の書き出し
- ホワイトボードに文章の記録

タイムキーパー

- 集中できる状況
- タイムマネジメント

ここまでのセッションの振り返り 13分

- ①ここまでの話し合いはうまくいっているか？ 7分
 - ▶ うまくいっている点、b. 改善したらもっとよくなる点
 - ▶ セッションルールに沿ってどうだったか？
 - ▶ ファシリテーター・書記・タイムキーパーの役割は？
- ② コーチからフィードバック 3分
- ③ この後の話し合いの進め方は？ 3分
 - ▶ メンバーで合意

▶ ファシリテーター・書記・タイムキーパーを決めて

▶ ポストイット・ホワイトボードの使用可

セッション全体の振り返り 12分

- ▶ チームコーチング導入部分のセッションの体験から学んだこと・気づいたことは何か？
- ▶ 前半と後半のセッションの違いは？
 - ▶ 発言の量と質、一体感、効果や効率
- ▶ 自組織のチームはどうか？
 - ▶ セッションの体験と比較してできていることは何か？課題は何か？
- ▶ チームコーチングはみなさんとみなさんのチームにとってどのような深い意義・効果があるか？

ファシリテーター・タイムキーパーを決めて

新たなアセンブリ教育Ⅱ

1. 新たにアセンブリⅡに採り入れる内容の説明と7/12FDの背景
 - (1) アセンブリ教育Ⅱの目的・方針
 - (2) これまでのアセンブリ教育Ⅱの課題
 - (3) 2021年度からの新たなアセンブリ教育Ⅱ
 - (4) 新たなアセンブリ教育Ⅱに向けての担当教員を対象としたFD
 - (5) アセンブリ教育Ⅱに向けての学生のreadiness
2. 新たにアセンブリⅡに採り入れる内容の説明と7/12FDの目的・目標
 - (1) 目的 (2) 目標
3. 新たなアセンブリ教育Ⅱ 2021年度～
 - (1) 新たなアセンブリ教育Ⅱの概要
 - (2) アセンブリ教育Ⅱにおける教員の役割と支援内容
 - (3) 全体活動の役割と内容
4. 今後のスケジュール

新たなアセンブリ教育Ⅱ

- ◆ 新たなアセンブリ教育Ⅱの理論的背景
 - ・なぜチームトレーニング・チームコーチングなのか？
 - ・チームの必要性 チームとグループの違い
 - ・チームトレーニングの必要性
 - ・チームコーチングの必要性
 - ・チームコーチングの概要
 - ・チームコーチングとは？
 - ・他のチームトレーニングとの違い
 - ・チームコーチングの理論
 - ・組織の成長モデル（グループ成長理論）
 - ・効果的なチームの5つの基本原則
 - ・ファシリテーション（効果的な会議運営）

Mini FD

- アセンブリ教育Ⅱをテーマとしたチームコーチングの体験

チームコーチング 参考文献

- 田口 智博 (2016) / 『特集 コーチング』『治療』 2016年99巻9月号 南山堂
- ピーター・ホーキングズ (著)、田近秀敏 (監修) (2012) / 『チームコーチング——集団の知恵と力を引き出す技術』 英治出版
- 半谷知也 (2014) / 『チームコーチング』[Kindle版] リーダーズベースジャパン
- 小笠原 健 (2015) / 『社員が自主的に成長する「全員活躍チーム」の作り方』 幻冬舎
- 今給黎 勝 (2016) / 『「実践」勝利に向かって無我夢中で躍動するチームを創る組織開発の新手法チームコーチング』 ギャラクシーブックス



チーム・チームトレーニング 参考文献

- ピーター・M. センゲ (2011) / 『学習する組織—システム思考で未来を創造する』 英治出版
- マイケル A ウェスト (著)、下山 晴彦 (監修) (2014) / 『チームワークの心理学: エビデンスに基づいた実践へのヒント』 東京大学出版会
- World Health Organization. (2011) / 『WHO Patient Safety Curriculum Guide: Multi-professional Edition 2011』
- Martina Buljac-Samardzic, et.al. / Interventions to improve team effectiveness: A systematic review. Health Policy, 94, 183-195, 2010



チームコーチング 参考情報

- 一般社団法人全国チームコーチ連盟 <http://www.ntcf.or.jp/>



第1回アセンブリ教育ワークショップ

Group Work：新たなアセンブリIIにおける問題点・課題の抽出

Group Work の様子



第1回アセンブリ教育ワークショップ

Group Work：発表&ディスカッション

A チーム



■教員

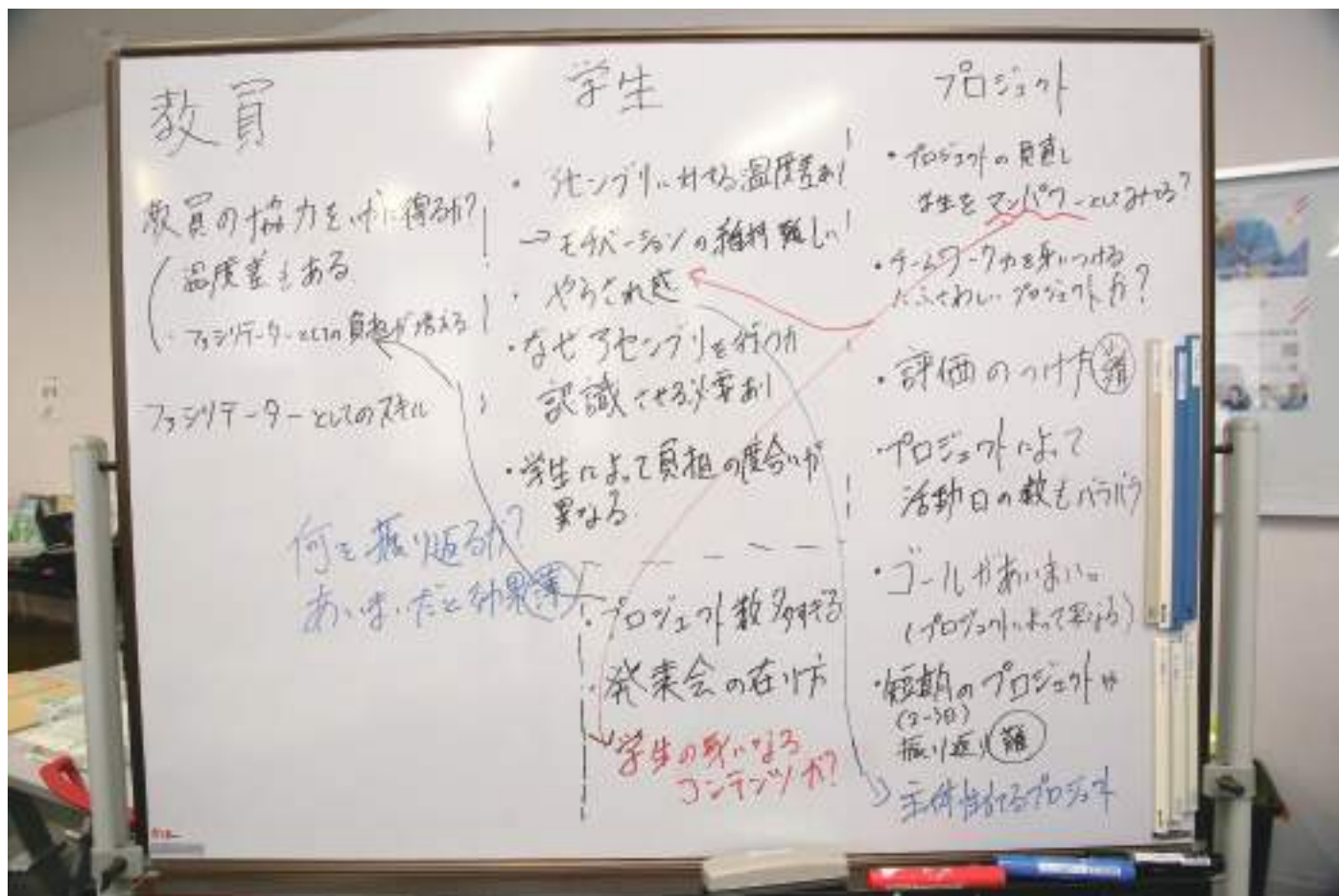
- ・教員の協力をいかに得るか。
- ・ファシリテーターとしてのスキル

■学生

- ・アセンブリに対する温度差があり、アセンブリの意義を認識させる必要がある。
- ・やらされ感がある。
- ・学生によって負担の度合いが異なる。

■プロジェクト

- ・学生をマンパワーとしてみている、学生の身になるコンテンツか？見直しが必要。
- ・短期のプロジェクトは振り返りが難しい。
- ・何を振り返るのかあいまいだと効果が薄い。



B チーム

チームコーチングをするうえでの問題点を検討した。

■教員

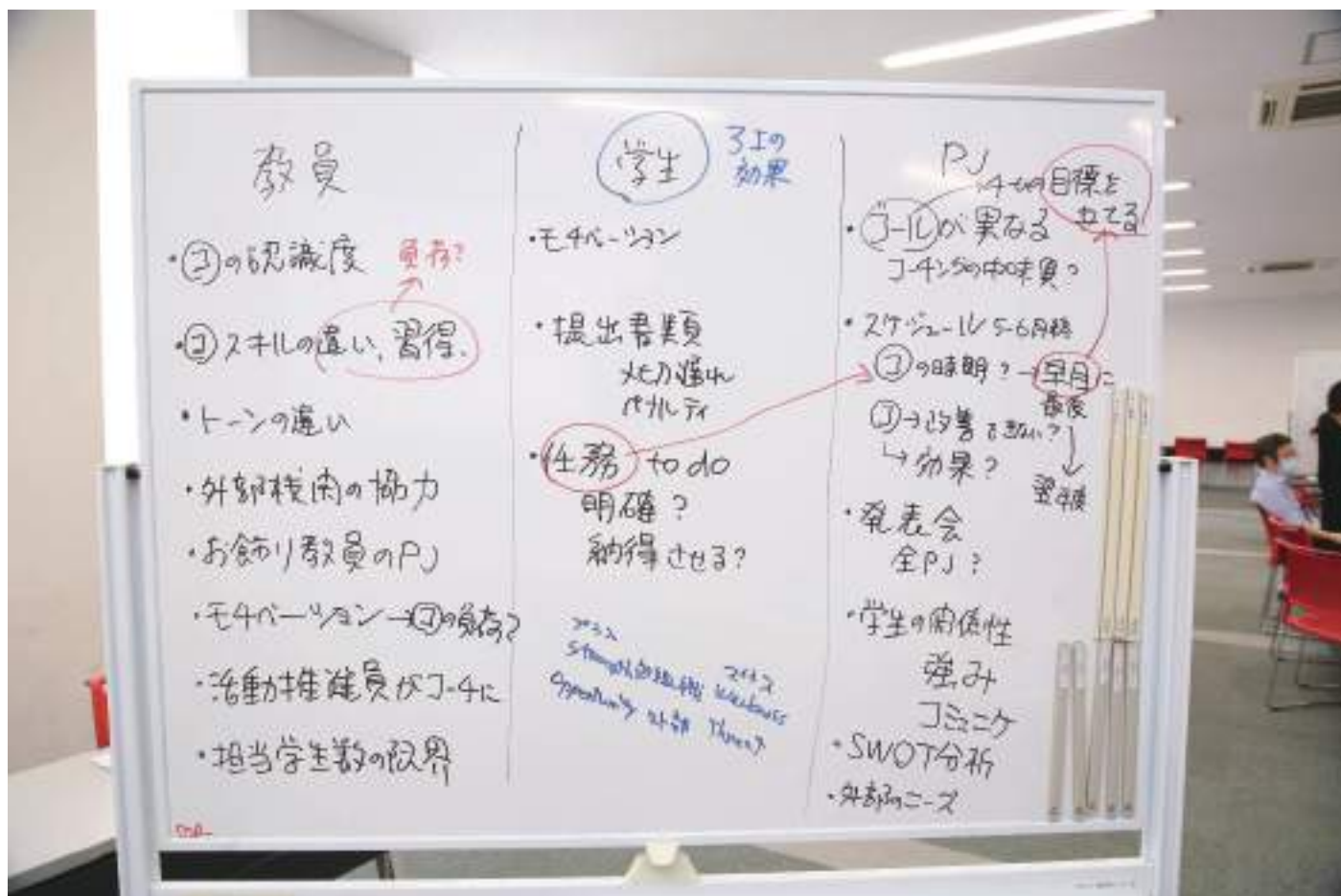
- ・教員の認識度、スキルの違い、運営委員全員が習得することは負荷がかかる？
- ・モチベーションの違い
- ・担当学生数の限界

■学生

- ・モチベーションをいかに上げるか
- ・提出書類
- ・任務：自分の立ち位置を早期に明確にする

■プロジェクト

- ・ゴールが異なる、チームの目標深度が異なる
- ・コーチングは早めに行う



C チーム

アセンブリⅡ全体の問題点を検討した。

■評価

- ・活動に関する評価、評価方法

■活動内容、活動時期のバラつき

■教員負担

- ・モチベーションの違い
- ・ファシリテートに差があることにより PJ の達成度が異なる問題

■学生の readiness

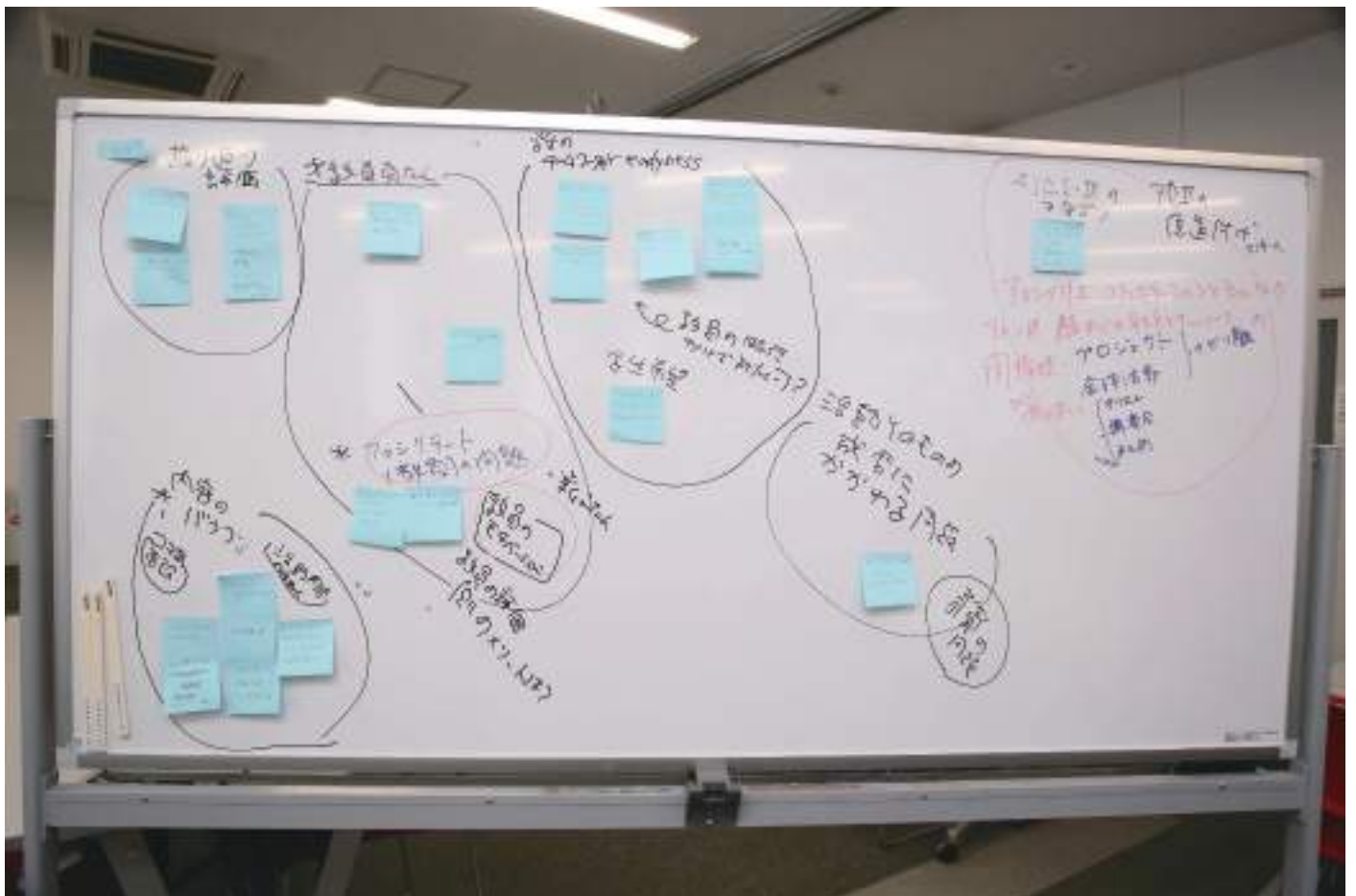
- ・教員のコーチングで解消可？

■活動そのものの成否

- ・外部機関との活動の場合はその活動そのものを成功させる必要があり、その中でコーチングするには負担が大きい。

■アセンブリⅡの位置づけ

- ・アセンブリⅠ、Ⅲとの関係性が不明瞭



D チーム

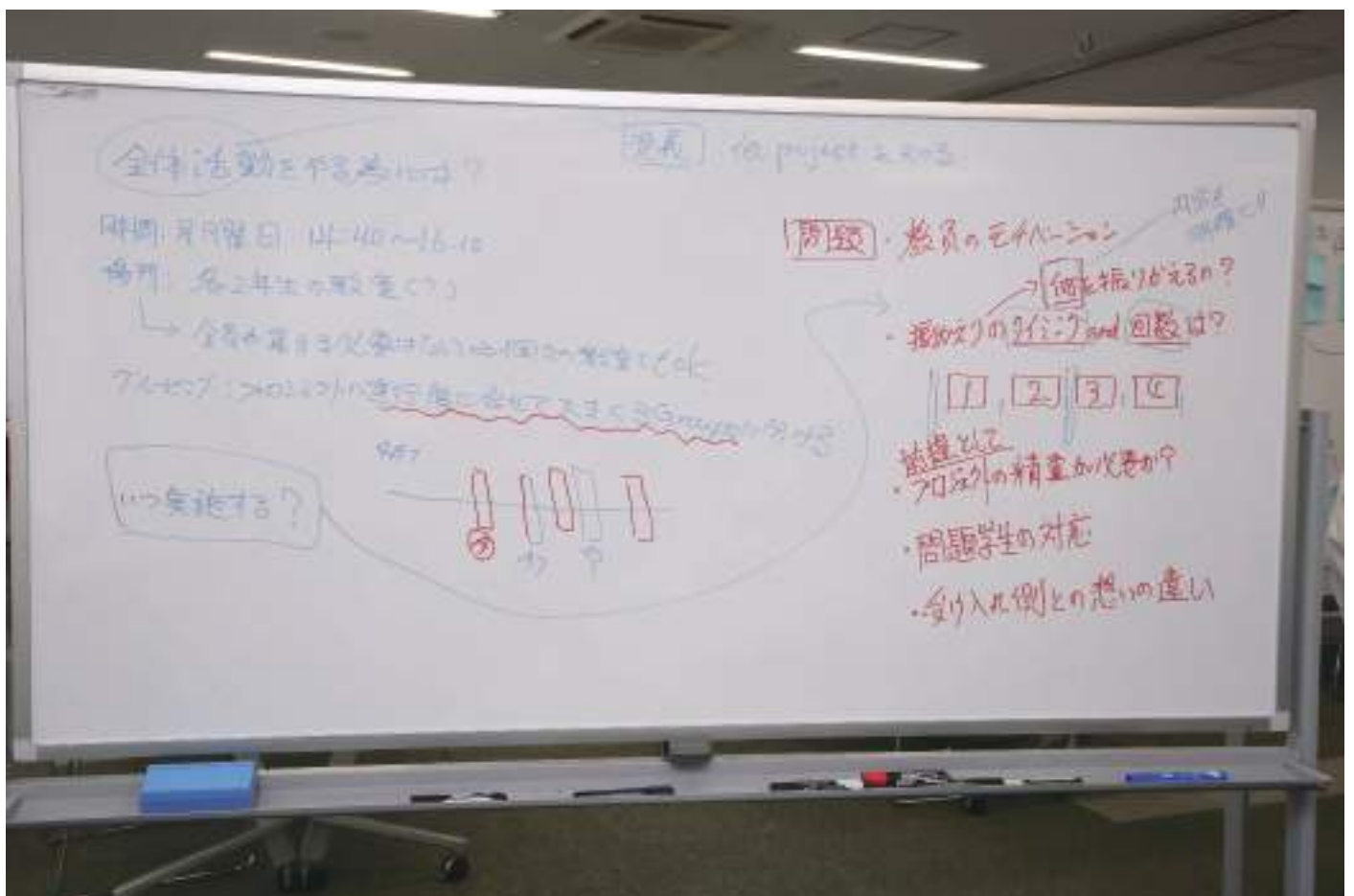


全体活動（振り返り）を行うためには？

全員が集まる必要はなく、プロジェクトの進行度に合わせて 3 グループに分ければ教室の問題も解消される。

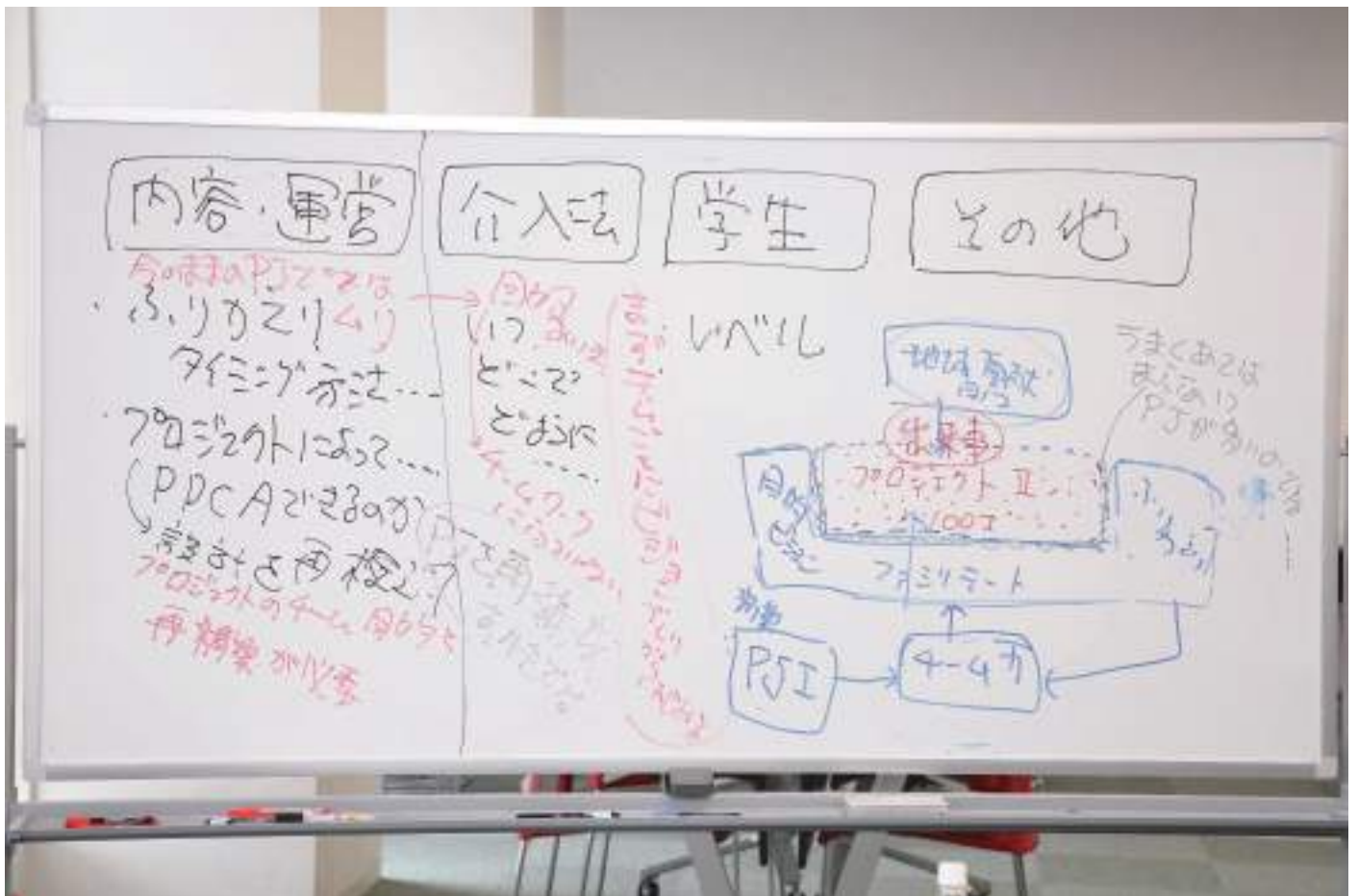
問題点

- ・ 教員のモチベーション、ファシリテーション力も様々であり均一した教育ができるか
- ・ 振り返りの時期と回数
- ・ 振り返る内容を明確に
- ・ 問題学生の対応
- ・ 受け入れ側と学生の想いの違い
- ・ プロジェクトの精査が必要



- ・ 振り返りのタイミング、内容
- ・ 現状のプロジェクトでは目的ありきで、チームビルディングの形が整っていない。
- ・ 細かいプロジェクトではなく、ビッグプロジェクトを立ち上げてもいいのでは？

- ・現状のプロジェクト活動をファシリテートするのか？
- ・プロジェクトの目的の再構築が必要であり、まずチーム毎にビジョン作りから始める。



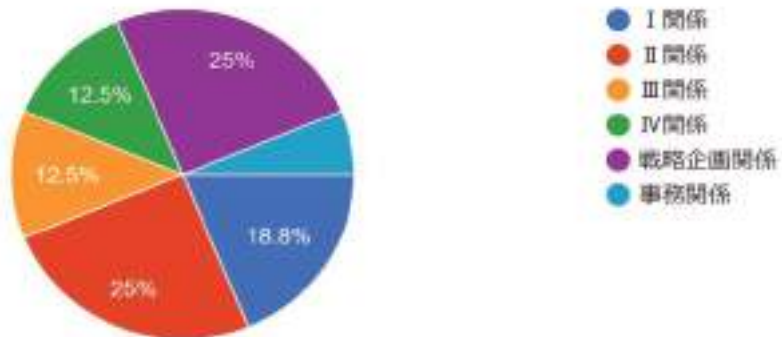
1 回アセンブリ教育ワークショップ
【Closing】



第1回アセンブリ教育ワークショップ アンケート結果

1. アセンブリ教育センターにおける所属を教えてください。

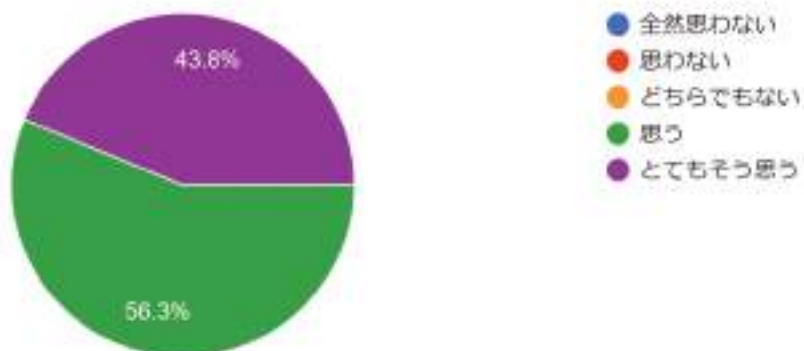
16件の回答



2. Mini

Lecture 1 「これからのアセンブリⅡと改革の...ブリⅡの改革に対する理解が深まったと思いますか？」

16件の回答



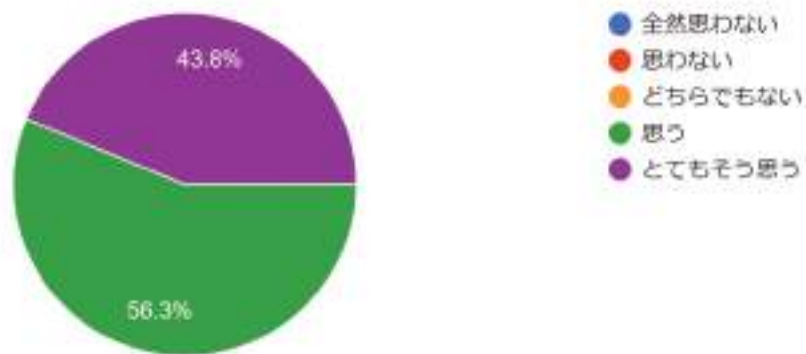
(コメント)

- ・プロジェクトの精査が必要
- ・現行プロジェクトの状況が不明
- ・現在まで実施されてきた内容と問題点が今回理解できました。それを踏まえて、次年度の活動について、考えて行きたいと思っています。
- ・最後のディスカッションで、個々のレベルでマイナーチェンジか、メジャーチェンジかは、まだ決着がついていないように感じました。まずはその確実な合意形成が必要ではないでしょうか？

3. Mini

Lecture 2 「新たなアセンブリⅡの説明」に参...アセンブリⅡに対する理解が深まったと思いますか？

16 件の回答



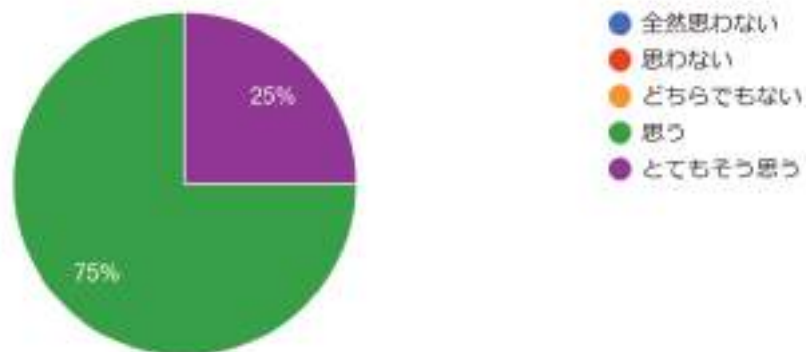
(コメント)

- ・はっきり言って、教育活動としての内容はとてもいいと思いますが、目標達成をどう評価するのが難しいところだと思いました。

4. Mini

FD「アセンブリ教員を対象としたFD」に参加し...テーションに対する理解が深まったと思いますか？

16 件の回答



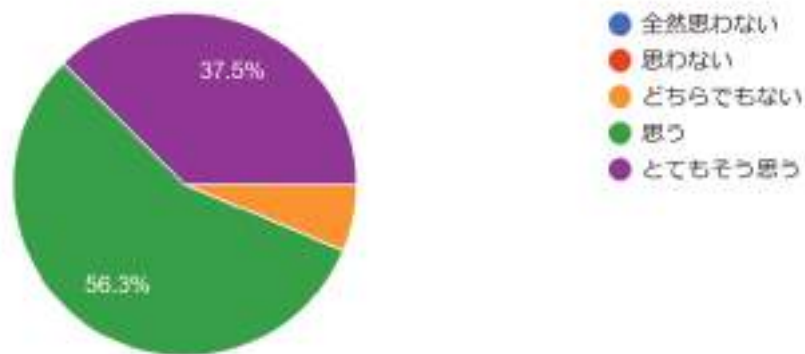
(コメント)

- ・アセンブリに関わる全ての教員にファシリテーションに対する勉強会が必要。複数回の教育(反復)がないと身に付かない。
- ・時間が足りない感がある。
- ・時間短かったため、自分が消化するには大変でした。まだ、不消化かもしれません。
- ・ファシリテーション？コーチング？新アセンブリ2に求められるスキルは？

5. Group

Work「新たなアセンブリⅡにおける問題点・課題」アセンブリⅡに対する理解が深まったと思いますか？

16 件の回答



6. 本 WS を通して、新たに実施するアセンブリⅡの目的や実施内容に関して理解ができましたか？（自由記載）

- ・理解できた。
- ・現状のプロジェクトに、新たなチーム力を当てはめるのは、内容の検討に時間がかかるのではないかと。大改革のため、次年度も検討を続け、23 年度からスタートというのは難しいのか？
- ・新規の部分の理解は深まった。
- ・チームコーチングについて理解できた。
- ・教員、学生、プロジェクトの三者にそれぞれ根深い問題があることが理解できました。
- ・目標や内容は理解できました。600 人の効果的な運営が大変そうです。
- ・はい。

7. 新たなアセンブリⅡに期待すること、あるいは不安なことは何ですか？（自由記載）

- ・ファシリテーションは全てのアセンブリ教育、アセンブリ以外の教育で必要になるので、FDをすすめる必要がある。
- ・課題として教員負担があげられたが、どのアセンブリでも負担はあるのである程度は仕方ないと思う。
- ・本日抽出された課題をどこまで解決出来るか。
- ・現行プロジェクトとのすり合わせに不安がある。
- ・学生のモチベーション向上に期待。
- ・この機会に、これまでアセンブリ 2 について理解が足りなかった教員の理解が進むといいと思います。
- ・600 人の学生に同じように教育的関わりが出来るか…。教員側の体制作りによるのかな？と思います。
- ・期待は新 1 に続き、学生のノンテクニカルスキルの向上になること。不安は全てのプロジェクトの担当教員の質の保証ができるのか？今でも問題があるのに、さらにコーチングまたはファシリテーションスキルをプラスするので。
- ・プロジェクト活動がいろいろありすぎて、同じような振り返りができるのか心配。

8. WS全体の中で良かった点、あるいは改善が必要な点は何ですか？（自由記載）

- ・皆さんの意見がきけてこれらのディスカッションの必要性を再認識できた。
- ・これまでアセンブリ2に関わりのなかった先生方にもアセンブリ2について認識してもらう良い機会となったこと。
- ・非常に積極的な意見交換ができたと思う。ただ、時間が足りなかった。
- ・プロジェクトとチームコーチングの問題を分けて議論したかった。
- ・チームでの議論はもう少し時間があつた方が良かった。
- ・今までのアセンブリⅡの理解をしながら、講演を聴き、ミニFDを行い、更にアセンブリⅡの問題点を話し合うには、時間が足りなかったと思います。内容が結構多かった気がします。
- ・よかった点:お弁当大変豪華でした。改善点:開催は土曜日、または平日の方が良いと思います。(参加者から聞きました)
- ・チームコーチングなどを、学生向けにやるためのトレーニングはもっと必要だと思います。実際にできるかどうか不安です。

9. WSに参加された感想・意見ををお願いします。（自由記載）

- ・日曜日の開催は気が重いです。
- ・各アセンブリについて、教員が良く分かっていないのが現状。まず教員のアセンブリ教育が必要と考える。そうすればモチベーションが上がるのではないかな。
- ・参加者の皆さんが、大変真剣に、かつ活発に討論して下さり、有り難かったです。
- ・大変有意義なWSでした。ご準備いただきました皆様、ありがとうございました。
- ・教員間のチームワークが向上したと思う。
- ・今回学生の立場としてプロジェクトを見立て手の議論を体験したことになるのですが果たして学生がこれらを実施した際に上手くファシリテートできるかは不安が残ります。
- ・これを煮詰めて、効果的に運営するのはこの先大変だな…。と思いました。
- ・1日、疲れました。おいしいお弁当や飲み物・ちょっとしたお菓子は、有難かったです。

